

## 4 研究の成果

学校生活のみに関わらず、普段何気なく行っていることが実はSDGsと深い関わりがあることに気付かされ、PTA会員と児童の意識向上に繋がり、SDGsがより身近な存在になったと考えられる。2年間にわたる研究活動の具体的成果として、以下の点が挙げられる。

### ○アルミ缶回収の方法変更

アルミ缶回収の目的を単に収益とせず、SDGsの目標12『つくる責任・つかう責任』を意識したものにすることで、リサイクル活動への自主性を強めた。

その結果、これまでの半強制的な回収作業から、学校に設置した回収用コンテナへの自由持ち込みとすることで、過疎化による人手不足で作業が困難だった地域でも、対応可能(持続可能)なものに変えることができた。

収益の面では、引き取り価格の変動もあり、例年の半分程度と予想以上に落ち込んでしまったが、一人ひとりのリサイクル活動に対する意識付けができたため、今後も同じ方法での回収作業が決定している。収益については、リサイクルに対する更なる意識の向上を図ることで、結果として改善されていくのが望ましいと考える。

### ○PTA会則の変更

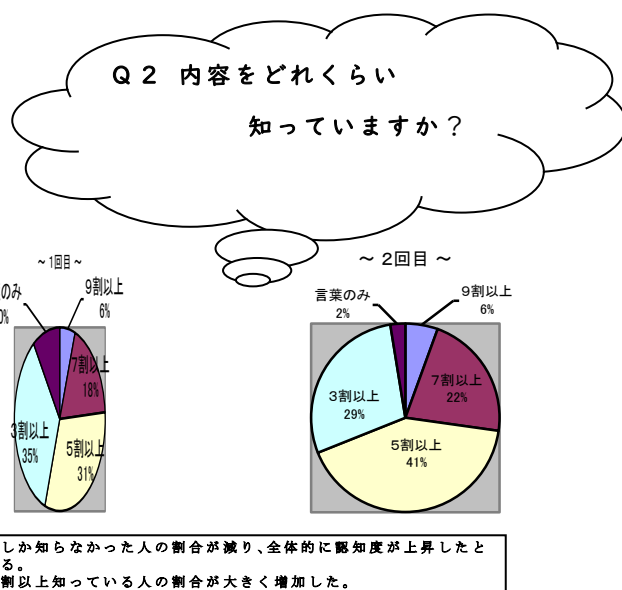
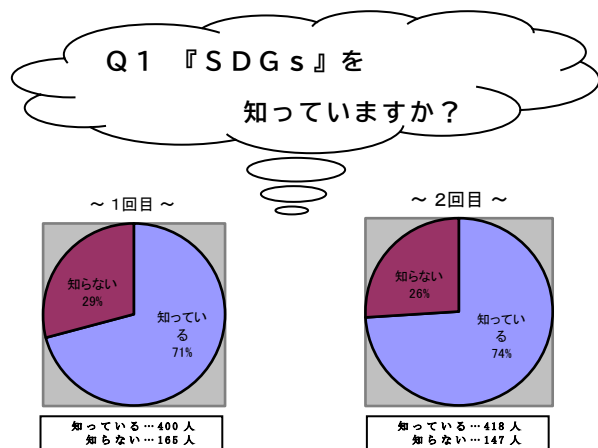
これまで本校PTA会則において、男性会長1名、男女副会長各1名の選出と規定されていたが、来年度より、SDGsの目標11『ジェンダー平等を実現しよう』の観点から、性別による規定を撤廃し、より柔軟なものとした。

### ○清掃活動の動機づけ

SDGsの目標11『住み続けられるまちづくりを』の“まち”を明南小学校に置き換えることで、児童による清掃活動の意識向上に繋がり、PTA作業(学校施設の清掃活動)もより意義のあるものとすることができた。

### ○SDGs認知度調査アンケート(一部抜粋)

※会員とその家族を対象に行い、565人からの回答が得られた。



## 5 今後の課題と方向性

コロナ禍の影響もあり、研究1年目は十分な活動ができず不本意な結果に終わってしまいましたが、2年目に入るとコロナによる制限の緩和、さらに学校関係者の多大なる協力のおかげで計画通りに活動することができ、一定の成果を上げることができた。これらを一過性のものとして終わらせるのではなく、SDGsと同じく持続可能なものにしていくことが今後の課題となる。その解決策の一つとして児童会との連携が重要と考え、本研究のテーマでもある『明南小学校版SDGs』の策定と推進に向け、今後もより一層PTAとして注力していく。